

～ 分科会 ～ 8日(日) (A～J分科会)

NO	分科会名	テーマ	分代会	分代会名	座長	助言者
A (施設ケア)	施設でその人らしい暮らしを支える	その人らしい暮らしを支えることを中心に、日常生活の中での支援のあり方や個別ケアの工夫、認知症ケアの取り組み、医療と介護の連携、最期まで食べることを大切にしたり取り組みなど、現場での実践事例を持ち寄り学び合ひしよう。 ・高齢者の「その人らしい暮らし」を支える取り組み ・その人のGOALから繋がるリハビリや外出支援などの取り組み ・排泄ケアや入浴ケア、口腔ケアなどの工夫実践 ・チームケア、多職種協働による実践 ・認知症高齢者が安心して生活できるための創意工夫の実践 ・認知症高齢者の尊厳を大切にしたりケアの取り組み ・医療と介護の連携（介護職員の特定行為）においての実践 ・医療ニーズへの対応と課題 ・感染症予防対策の取り組み ・皮膚ケアの充実、褥瘡予防の取り組み ・生活の延長にある看取りケアの実践 ・最期まで食べる事を大切にしたり実践 ・嚥下障害や食欲不振、認知症による摂取量低下等への栄養改善の取り組み ・栄養ケアマネジメントの取り組み ・調理現場における個別対応と調理の工夫 ・サービス機関との連携、地域資源の活用	A-1	豊かな日常を支える ①	東京 みやま大樹の苑 施設長 福田 瑞恵 福島 おおつき 施設長 榎副部長 寺崎 友恵	群馬 誠の園 施設長 山口 千春
			A-2	豊かな日常を支える ②	群馬 エンジェルホーム 施設長 若林 毅	愛知 シルババーピアかりや 施設長 早川 昌宏
			A-3	重度化した高齢者への対応 (医療と介護の連携・看取り等)	鳥根 長命園 施設長 須山 俊二	岡山 健生園 施設長 竹永 徹
			A-4	食について考える	大阪 いのこの里 料理長 岩井 大	長野 ゆい 看護主任 伊坪 陽子
B (在宅ケア)	在宅生活を支える施設の役割を考える	在宅生活を支えるショートステイやデイサービスの役割や課題、地域のネットワーク、医療ニーズの高い利用者への対応についての実践事例を持ち寄り学び合ひしよう。 ・ショートステイ、デイサービス特有の課題、難しさ、工夫した取り組み ・認知症高齢者のショートステイ、デイサービスでの支援の工夫 ・緊急ショート受け入れ(高齢者虐待での対応等) ・ショートステイの洗濯、荷物点検、服薬の管理の課題と工夫 ・デイサービスの役割と求められるニーズの変化 ・デイサービスでのレクリエーション活動等の工夫 ・在宅介護を支える上での家族支援の取り組み、世帯単位での支援のあり方 ・アセスメントとリスク管理、情報共有 ・医療的ケアが必要な利用者の対応と課題 ・チームケア、多職種協働、他機関との連携による支援	B-1	短期入所の取り組みを中心に	兵庫 甲斐園 副施設長 川内 光子	新潟 穂波の里 施設長 井上 悦子
			B-2	通所の取り組みを中心に	東京 永福ふれあいの家 所長 菱木 幸治	兵庫 あしや喜楽苑 部長 皆貝 泰代
			B-3	医療ニーズへの対応と課題	長崎 青葉苑 施設長 榎本 哲子	北海道 かりぶ、あつべつ 施設長 田名部 みどり
C (ケアハウス等)	有料ホーム・ケアハウス、サ高住など多様な住まいの機能と役割を考える	高齢者の住まいの普及が促進され、各地で多様な住まいが建設されています。サービス付き高齢者住宅、有料老人ホーム(住居型、介護付き)、グループリビングなど、これらが「老後の住まいと介護」の保障になり得るのか、また安心の住まい「終の棲家」になり得るのか、事例を持ち寄り、現状と課題を議論しましょう。 ・多様な住まいの機能と役割、運営の問題・課題 ・中重度者への対応 ・医療的ケアが必要な利用者の対応と課題 ・地域でのネットワークと連携	C	ケアハウス・有料老人ホームなど	愛知 ケアハウスすこやか 施設長 阿藤 広志	福岡 ケアハウスらいふ戸畑 施設長 内田 義則

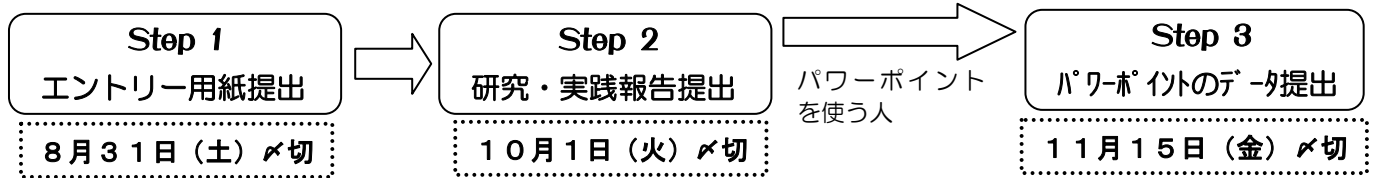
D (養護)	養護老人ホームの役割と課題を考える	<p>養護老人ホームの役割と今後の運営について、現状課題や固有の問題について論議しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養護老人ホームのあり方、利用者への生活支援 ・精神疾患等のある利用者への支援 ・「外部利用型」の導入など制度転換の実態と対応 ・ショートステイの取り組み ・自治体との連携、低所得者・社会適応困難高齢者の実態 	D	養護老人ホーム	大阪 城東養護老人ホーム 副施設長 横山 道夫	岡山 岡山市会陽の里 施設長 藤岡 理恵
E (地域)	地域で暮らし続けることを支える	<p>(訪問介護)</p> <p>度重なる制度改定に、利用者・家族の在宅生活は、大きな影響を受けています。看取り、同居の認知症高齢者を支える緊密なネットワークの構築も急務です。事例を通じて、訪問介護の専門性を語り合い、問題を共有しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス提供責任者の主張…「やりがいはあるけれど、何とかしてよ！この現実」 ・生活援助の専門性…「その人らしさを支え、今日も明日も生活できる」を支える ・ヘルパーの担う「医療行為」…研修制度、事故のリスクなど考えておきたい事 ・この家で最期まで…在宅での看取りの実践 ・介護報酬改定における訪問介護現場での影響と支援 <p>(グループホーム)</p> <p>地域密着型サービスとして、地域の中におけるグループホームのあり方、重度化や看取りの対応等、ケアの質が問われています。グループホームならではのケアや課題を持ち寄り議論しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループホームでのケアのあり方、「看取り」家庭復帰などの実践 ・グループホームの役割、地域の関わり、連携 ・グループホームでの認知症ケアの実践 <p>(小規模多機能施設)</p> <p>住み慣れた地域で暮らし続けるため「通い」訪問「泊まり」のサービスとして創設されましたが、報酬上の問題や小規模多機能としての役割など、メリットにも多くの問題が浮かび上がっています。在宅生活を支える取り組みや課題について、実践事例を通して議論しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模多機能施設の役割と地域との連携 ・認知症になっても地域で暮らせるための施設の役割 ・医療的ケアが必要な利用者の対応と課題 <p>(居宅介護支援・地域包括支援・在宅介護支援センター・特養相談部門)</p> <p>高齢者は、地域で暮らし続ける中で、たくさんの生活問題を抱えます。安心して暮らすことができる地域づくり、コミュニティケアについて、また市町村独自の制度など、その人らしい生活が支援できる地域包括ケアの姿について、実践例や課題を持ち寄り議論しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアの新たな役割と課題 ・権利擁護について(虐待防止・早期発見・成年後見制度の活動報告) ・行政の連携と地域ケア会議について ・事業所の運営とケアマネジャーの「質の向上」への取り組みについて ・多問題家族や一人暮らし、老老介護など困難事例への取り組み ・在宅における看取りの取り組み ・障書のある家族支援の取り組み 	E-1 E-2 E-3 E-4	<p>在宅を支えるホームヘルプサービス</p> <p>グループホームケア</p> <p>小規模多機能施設</p> <p>地域づくり、コミュニティケア・在宅介護で困難(重度化等)な事例の対応</p>	<p>広島 くすの木苑 地域主任補佐 福原 紀恵</p> <p>京都 生活総合支援センター姉小路 施設長 宮本 武史</p> <p>東京 すこやか福祉会 介護事業部副部長 寺田 慎</p> <p>京都 七野会 事業担当常務 橋本 信夫</p> <p>兵庫 喜楽苑 施設長 小林 浩司</p> <p>京都 綾部東部在宅介護支援センター センター長 今中 智子</p>	<p>茨城 ヘルパーステーションジョンけやき 所長 早瀬 努</p> <p>島根 ひまわり園 施設長 常陸 実</p> <p>京都 七野会 事業担当常務 橋本 信夫</p> <p>京都 綾部東部在宅介護支援センター センター長 今中 智子</p>

<p>F (安心安全)</p>	<p>安心・安全な生活を考 える</p>	<p>日常生活のなかには、多くのリスクが存在します。リスクへの対応をどのように捉えるかで、利用者の生活の有り様が変わることがあります。事故予防の取り組みや体制づくり、研修や学習活動など各施設の実践を持ち寄り議論しましょう。東日本大震災を教訓に、明らかになつた課題についても考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 発生した事故から学んだこと、再発防止、改善の工夫 身体拘束防止、虐待防止の取り組みと課題 オンパズマンや第三者機関活動の実例 その人らしさ、自由、プライバシーを守るケアの実践 事故防止の取り組みや体制、家族との連携・信頼関係づくり 事故対策のマニュアルとその活かし方(ヒヤリ・ハットの活用) 高齢者の生活とリスクマネジメントについて 震災の教訓から防災計画等に活かしたこと 	<p>F 安心・安全な生活</p>	<p>福島 はなしのぶ、 ケアワーカー一長 東条 悠一郎</p>	<p>福岡 いきいき八田 統括部長 溝口 孝一</p>
<p>G (職場作り)</p>	<p>誇りと自信を持ち働き がい、やりがいのある 職場づくりを考える</p>	<p>職員が誇りと自信を持って元気に働くことは、職場の大きな目標です。そのような職場づくりをどのように進めるか、取り組みの事例などを持ち寄り、課題や問題解決のヒントを考えましょう。新しい8Kが実感できる職場づくりについて話し合いましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 組織の活性化につながる取り組み 自分の考えや意見を本音でぶつけあい、職場の問題に取り組んだ事例 職場のストレスマネジメントやメンタルヘルスについて 管理職や上司、他職種とのコミュニケーションについて 研修制度、職員育成の工夫や悩みなど チームワークや協力・連携への課題など 8K(希望・輝き、絆、きづき、きらめき、感謝、感激、感動)を感じた瞬間 介護キャリア段位制度がもたらすこと 	<p>G 職場作り</p>	<p>大阪 いのこの里 副施設長 吉川 幸志</p>	<p>山形 とかみ共生苑 施設長 横山 雄治</p>
<p>H (事務)</p>	<p>福祉施設における事 務の役割を考える</p>	<p>事業の多様化、制度改定、厳しい経営環境のなか、「業務の要し」としての役割がますます重要になっていきます。また、行政や地域との関係づくりの上でもその能力を求められています。事務部門の役割についての論議を深めましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉施設における事務部門の役割、他部門との連携の工夫 事務、経理、総務業務の効率化、経営データの活用 事務部門からみた介護保険制度の問題 施設の民主的運営の課題、各種委員会の事務局など運営への参加 全職員参加の経営、処遇改善に向けた取り組みなど 情報管理の工夫 守秘義務と情報公開の課題 	<p>H 事務の役割を考える</p>	<p>大阪 柳ノ木荘 施設長 弟子丸 孝子</p>	<p>千葉 ショートステイ五香 施設長 伊藤 裕之</p>
<p>I (家族支援)</p>	<p>家族介護者を支える</p>	<p>介護保険は「介護の社会化」をうたっていますが、依然として家族介護に頼る実状があります。在宅介護と施設介護の費用や介護負担の違いなど課題は山積していることに加え、在宅介護者の4人に1人はうつ傾向がみられる。心身の疲労を抱えているなどの報告もあり、介護者支援は重要課題といえます。利用者を支えるために、利用者ご本人のみならず、家族等の介護者を対象とした援助技術や支援体制、介護者同士の支援等ネットワークの構築、地域のインフォーマルな共同組織などの取り組みや課題を持ち寄り考えていきましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 家族会活動の現状と課題 家族とのケアパートナーシップ 家族等介護者への支援と課題 介護者のネットワークづくりの現状と課題 地域のインフォーマルな共同組織活動 家族介護の家族の本音とその支援 	<p>I 家族介護者を支える</p>	<p>石川 なんぶやすらぎホーム 施設長 坂口 朋美</p>	<p>東京 白十字ホーム 施設長 西岡 修</p>
<p>J (入門講座) 9時～12時</p>	<p>学生さん向け 入門講座</p>	<p>高齢者施設での仕事は、お年寄りのお世話をすることだけではありません。入居者・利用者主体の取り組みや事業内容を、現場職員、利用者・家族のみならずご紹介します。みんなととも歩み、ともに楽しみ、ともに生きる、福祉職場の新しい8Kを一緒に考え、学び合いましょう。</p>	<p>J 地域包括支援センターの事業内容</p>	<p>・利用者の家族から見た高齢者の暮らしや、高齢者施設への思い ・デイサービスを利用されている方の生活や施設での取り組み ・利用者自治会の取り組みと職員の支援</p>	<p>入門講座は午前中のみ開講します。 昼食休憩をはさんで、午後からは、希望される分科会にご参加いただきます。 (できるだけ事前に希望分科会を決めておいて下さい)</p>

～分科会演題募集～

職員研究交流集会の分科会には毎年100本を超えるレポートが提出され、有意義な実践交流が図られます。

日々一生懸命、高齢者に寄り添いながら、ゆたかな援助実践を積まれている全国の皆さん、日頃の地道な実践を京都に持ち寄り、ともに学び、ともに育ちませんか?ぜひ、分科会一覧表(P5~7)をご参照の上、発表をご検討下さい。発表いただける方は、「演題募集エントリー」用紙(P9)に必要な事項をご記入の上、8月31日(土)までに下記の提出先までFAXにてお送り下さい。



～研究・実践報告の提出について～

当日配布の資料に掲載する原稿を下記のとおりご提出頂くようお願い申し上げます。なお、パワーポイント使用をされる場合には「パワーポイントを用いての発表についてのお願い」(P10)をご参照下さい。パワーポイント等の使用については、エントリーの時点で申し出があったものしか認められません。

☆ 発表原稿様式

※ A4用紙2枚以内でまとめてください《厳守》

【原稿作成時】 ソフトはWORDを使用。用紙サイズA4/余白：上下・左右とも20ミリ/横書き/1行45字/(2枚以内)。本文の文字：MS明朝/フォントサイズは10.5。原稿本文にはタイトルを明記：下記例示のようにオートシェイプを使用し□で囲む。<タイトルの文字>はMSゴシック/フォントサイズは、タイトル12、サブタイトルを付す場合はフォントサイズ9、その他は10.5。章立てをする場合には、章に1、2、3の数字、節に1)、2)、3)のように片の数字、項に①、②、③の囲いのある数字を用い、本文との違いを明確にするためMSゴシックとする。(昨年資料を参照して下さい)

タイトル○○ (フォントサイズ12) —サブタイトル○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○— (フォントサイズ9) 都道府県 所属の施設種別名 施設名 職名 氏名 (道府県名以下フォントサイズ10.5)

※ レポートの末尾に、発表者施設の連絡先(問い合わせ先)を記入してください。

○WORD ファイル名：【[分散会No.][県名][施設名][氏名]】(例) A—2 京都 金閣の園 牛若 弁慶

【原稿送信時】 下記「原稿提出先」の宛先を参照し、EメールにWORDファイルを添付して送信して下さい。その際、件名にはWORDファイル名同様、【[分科会No.][県名][施設名][氏名]】を明記して下さい。発表原稿に写真等を添付する場合、容量が大きいデータは別途記憶媒体に保存の上、郵送をお願いします。

【その他】 発表方法は資料集に掲載されたレジュメ等に基づいてお願いします。発表にあたって、利用者等の個人情報の取扱いについては、事業所の個人情報保護規定に従い、適正な対応をお願い致します。研究交流集会に参加できない方々とも実践交流を図る趣旨で、研究・実践報告(発表)された内容を情報交流誌「ぽとぽら」の特集記事として取り上げることもございますのでご承知下さい。

☆ 発表時間 1演題につき10分～20分程度(各分科会の演題数によって異なるためあくまで目安)

☆ 原稿締切 ○10月1日(火) 必着

☆ 原稿提出先 EメールにてWORDファイルを添付の上、下記へお送りください。

メールアドレス tanpopo.kobato@gmail.com グループホームたんぽぽ(担当：大谷)

～分科会 演題発表のエントリー用紙～

☆ 発表エントリー

- 共同研究（発表）をおこなう場合は、代表者のみ1名を下記＜発表者名＞に記入の上、＜発表内容＞に共同研究と明記して下さい。共同研究者の氏名記載は、発表原稿本文へお願いいたします。なお、集会当日に共同研究者とともに参加・発表する際は、参加申込用紙の備考欄にその旨記載して下さい。
- 希望分科会を記載する際は、分散会番号も忘れずにご記入下さい。（例：A-2やG-3など）
- エントリー受付後、分科会によって演題数の大幅な差異が生じた場合は、実行委員会で演題数の調整を行います。希望する分科会から別の分科会へ移っていただくこともございますのであらかじめご了承下さい。
- パソコン持参の可否については、基本的には事務局で用意をしますが、可と返答があった場合に持参のお願いをさせて頂くことがあります。

施設名					施設種別				
施設住所	〒				TEL	()			
				FAX	()				
				E-mail			@		
発表者氏名					職種				
発表希望分科会 (-)	演題								
分散会番号も忘れずに	パワーポイント	使用する	・	使用しない	パソコン持参	可	・	不可	
発表内容(簡潔に)									

☆ 提出期限

- 8月31日（土）必着

☆ 提出先・問い合わせ先

- FAXにて本用紙を下記までお送り下さい（表紙不要）。FAX 06-6878-5738
- 問い合わせ先
 現地実行委員会事務局 グループホームたんぽぽ（担当：大谷）
 TEL 06-6816-3810 FAX 06-6878-5738
 メールアドレス tanpopo.kobato@gmail.com

～PowerPoint を用いての発表についてのお願い～

1. 使用機材について

発表に使用する機材はパソコン・プロジェクターとします。パソコン・プロジェクターおよび接続用ケーブルは主催者側で準備致します。(なお、「発表演題募集」応募の際、ノートパソコン持参可とお答えいただいた方には、事務局から個々にお問い合わせする場合がありますのでご了解ください)

2. データの事前提出について

あらかじめ、発表データを下記住所に送付いただくこととします。提出はCD-Rにてお願い致します(メール添付はご遠慮ください)。なお、提出の際にはパワーポイントのバージョンを必ずご明記下さい。また、動画の使用は不可です。CD-Rと一緒に、プリントアウトをした紙ベース資料を同封して下さい。

また作成の際には、MS明朝、MSゴシック等Windows添付の標準フォントで、写真等を用いる場合は、アクセサリのペイント等で表示される実寸サイズにあらかじめ小さくしたものをご使用いただきますようお願いいたします。

3. 発表について

発表時は、各分科会で使用するパソコンのデスクトップにパワーポイントのファイルをコピーしておきますが、操作は各自で責任を持っておこなって下さい。予め動作確認などは主催者側で実施し、トラブルのないように努めますが、基本的には各自で対応して頂く事となります。ご不明な点がございましたら、下記にご連絡をお願い致します。

4. 提出期限

11月15日(金) 必着

5. 提出先

城東特別養護老人ホーム(担当:畑)

〒536-0001 大阪市城東区古市1-20-17 TEL 06-6931-5190

～各期日を守ってご提出下さい～

運営にご協力お願いします(._.)

- 「演題募集のエントリー」〆切は、8月31日(土)です。

エントリー用紙に必要事項をご記入いただき、グループホームたんぽぽ(担当:大谷)までFAXで送信願います。

FAX番号: 06-6878-5738

- 「発表原稿」の提出〆切は10月1日(火)です。

EメールにてWordファイルを添付の上、グループホームたんぽぽ(担当:大谷)までお送り下さい。

メールアドレス: tanpopo.kobato@gmail.com

- 「PowerPointデータ」の提出〆切は11月15日(金)です。

データをCDにコピーの上、城東特別養護老人ホーム(担当:畑)までお送り下さい。

送付先: 〒536-0001 大阪市城東区古市1-20-17